

Osakaを、根っ子から支えるタウン誌でありたい 御堂筋新聞

- ・ 地域、読者、紙面の健全な関係
- ・ 小さくともキラリと光る情報の発信
- ・ 楽しくて役に立つ紙面創り
- ・ 目指すは読者参加型
- ・ 潤いをもたらす情報誌

1970年日本初のタウン誌としての創刊以来、御堂筋新聞は常に大阪に密着した情報紙でありたいと考えてきました。創刊38年を迎えた今年、WEB連動型の新しいタウン誌として生まれ変わりました。いよいよ12月号からは紙面も同時発行致します。新しい御堂筋新聞にご期待ください。これからも皆様と一緒に歩んで行きたいと考えています。弊社に対するご意見をお待ちしております。

御堂筋新聞 編集長

深堀 正品

私たちも
御堂筋新聞を応援しています！

深堀さんの御堂筋新聞
がんばってください。

井上 章

中之島に勤めていた私にとって御堂筋新聞は青春の1ページです。関西一円の情報を貰い、いろんな所へいきました。すべて懐かしい思い出です。その新聞をまた目にする事ができる喜び！ガンバッテ〜とエールを送ります。

鍛冶 睦子

前編集長の遺志を継ぎ、ご自分のポリシーをもちながら新しい御堂筋新聞を目指して頑張っておられます。私も自分のやることをやっていきたいと思っています。深堀さん、ともに頑張りましょう！

山本 ゆき

御堂筋新聞には五感を刺激する記事をたくさん書いていただきたいと思います。深堀編集長のご活躍を祈念します。

おしゃれ 男爵

私たちの暮らしに欠かせないものとして、これからも多くの情報発信をお願いします。是非もう一度関西を活性化させて下さい。

水本 光洋

食べ物と美容関係のお店紹介で埋めつくされた情報紙が多い中、御堂筋新聞は、大阪をいろいろな角度から紹介してくれたり、日常を瑞々しい心で見つめなおす視座を教えてください。さすがタウン紙のパイオニアですね。編集長の「御堂筋 on Blog」も楽しみにしています。

熊谷 京子